

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の  
結果について

学 校 教 育 課

## 平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果について

### ■調査の概要

- 実施日 平成31年4月18日(木)
- 調査方式 悉皆調査
- 調査対象 小学校第6学年の児童, 中学校第3学年の生徒
- 調査内容

#### 【児童生徒に対する調査】

- ・教科(国語, 算数・数学, 英語)に関する調査

小学校調査は国語及び算数, 中学校調査は国語, 数学及び英語とし, それぞれ, 「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」を一体的に出題。英語においては, 「聞くこと」, 「読むこと」, 「話すこと」, 「書くこと」に関する問題を出題。

- ・質問紙調査

学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する内容

#### 【学校に対する調査】

- ・質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や教育条件の整備状況等に関する内容

#### ○本県の実施状況(公立学校のみ)

- ・実施学校数 246校(小学校164校, 中学校82校 ※中学校に特別支援学校3校を含む。)
- ・実施児童生徒数 約11,100人(小学校6年 約5,500人, 中学校3年 約5,600人)

### ■教科に関する調査結果(公立学校のみ)

平均正答率は, 次のとおりであった。

校種	小学校(第6学年)			中学校(第3学年)			
教科	国語	算数	総 合	国語	数学	英語	総 合
問題数	14	14		10	16	21	
平均正答率	徳島 63	65		70	59	57	
(%) ※1	全国 63.8	66.6		72.8	59.8	56.0	
全国順位 ※2	33	33	35	42	26	7	30

※1 中学校英語調査の結果については, 「聞くこと」, 「読むこと」, 「書くこと」の合計が集計されている。「話すこと」に関する問題の結果については, 全国の平均正答数及び平均正答率を「参考値」として, 各都道府県別の公表は行われていない。

※2 順位については, 本県独自に平均正答率から算出した値である。

## ■結果分析等の概要（小学校）

国語、算数ともに正答率は全国平均を下回る結果となった。その原因としては、従前の「主として『知識』に関する問題」（A問題）と「主として『活用』に関する問題」（B問題）が一体化されたことにより、活用タイプの問題の割合が増えたことが主な要因と考えられる。

今年度は結果として総合で全国35位の順位となり、昨年度の40位よりは少し向上しているが、これまでの取組を検証し、更なる改善をしていく必要がある。

### 【小学校】

○**国語**：文と文との意味のつながりを考えながら接続語を使って内容を分けて書くこと、話し手の意図を捉えながら聞く問題の正答率は全国平均よりも高い。

一方、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことや、説明や解説などの文章を比較するなどして読み、自分の考えや理由を明確にし、まとめて書くことに課題が見られる。

○**算数**：図形の基本的な性質を理解していること、棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることや減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方などには、定着が見られる。

一方、問題文章中に示された、加法と乗法の混合した整数と小数の計算結果を求めたり、合同な2つの図形を動かし合わせて形を選んだり、問題文に示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式する問題の正答率は全国平均よりも低い。

また、言葉を使って除法計算の考え方を説明する問題の正答率については、全国平均の傾向と同様低くなっており、課題が見られる。

## ■結果分析等の概要（中学校）

国語、数学ともに正答率は全国平均を下回る結果となった。その原因としては、従前の「主として『知識』に関する問題」（A問題）と「主として『活用』に関する問題」（B問題）が一体化されたことにより、活用タイプの問題の割合が増えたことが主な要因と考えられる。

今回初めて実施された英語の正答率については、全国平均を上回り、全国7位という結果であった。

昨年度まで総合で10から20位台で安定していたが、今年度は結果として総合では全国30位の順位となり、更なる改善が必要である。

## 【中学校】

○**国語**：全ての問題において、正答率が全国平均を下回っている。書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することについては定着が見られる。

一方、伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことや、話合いの話題と方向を捉えて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして自分の考えをまとめることに課題がある。封筒の書き方を理解して書くことや語の一部を省いた表現について話や文章の中で適切な活用の仕方を理解する問題の正答率も低かった。

記述式の問題、短答式の問題については、正答率が全国平均よりも低く、無解答率が高い。説明や解説などの文章を読み、自分の考えをまとめて書くことに課題がある。

○**数学**：四則計算の結果が正の数になるかについて理解していること、連立方程式を解くこと、簡単な場合について確率を求めること、証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解していることなど、各領域の基礎となる内容に関しては、定着が見られる。

しかし、ヒストグラムから資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること、文字を用いた式において目的に応じた式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること、与えられた条件から図形の形を変えても同じ結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができるかどうかを見る問題の正答率は、全国平均よりも低い。これらは記述式の解答となっており、特に無解答率が高くなっていることに課題がある。

○**英語**：読むこと、書くことについては全国平均を上回り、特に、書くことの正答率は高かった。簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取る力や、簡単な語句や文を用いて正確に書く力などについて、概ね定着が見られる。一方、文法事項の活用や、まとまりのある文章の概要や要点を捉える問題に課題がある。読んだり聞いたりしたことについて自分の意見を書く問題では無解答率がやや高かった。

■対応

【課題】

本年度の調査結果を踏まえ、児童生徒が培ってきた知識・技能をいかに活用し、応用していく力を養っていくかが課題である。

【これまでの取組の発展】

昨年度より取り組んでいる「徳島『未来の学び』創造プロジェクト」を検証・改善しつつ引き続き実施するとともに、本年3月にとりまとめられた「国語力向上タスクフォース」での提案を各学校の全ての教科指導にしっかりと位置づけるよう、改善を促す。

【新たな取組】

○「授業づくり研修会」

全国学力・学習状況調査結果を活用し、本県の教科ごとの課題把握と授業改善について協議・研修し、学習指導及び校内研修の改善・充実に資することを目的とした「授業づくり研修会」を実施。

○学校訪問の深化・充実

全国学力・学習状況調査結果を活用し、鳴門教育大学の協力も得て、「授業改善推進校」を中心に、継続的な学校訪問、組織的体制の強化等を図る。

○教科担任制の効果分析

今年度より実施している「教科担任制モデル校事業」において、調査結果を踏まえた研究実践を推進。

○「世界スタンダード英語4技能育成事業」(新規)

英語について、4技能のバランスのよい育成に向け、授業改善を進めるモデル校の指定事業を実施し、更なる成果の普及を推進。

※「徳島『未来の学び』創造プロジェクト」とは・・・

主体的・対話的で深い学びの実現による、子供たちの「確かな学力」の育成。

①学校訪問の実施

- ・新学習指導要領の周知・徹底
- ・指導方法等の指導・助言
- ・国語力向上タスクフォースからの提案の周知・徹底

②学力向上確認プリントを効果的に活用したPDCAサイクルの構築

- ・全国調査・県ステップアップテストの詳細な分析及び課題の把握
- ・学力向上確認プリントの作成と効果的な活用

③鳴門教育大学との連携による取組

- ・「授業改善」推進校事業
- ・授業力向上のための研修